

地域と共に歩む

富山商工会議所議員
インタビュ⑨



組織の連携と数の力を生かして 業界と地域産業の持続的発展を

富山商工会議所 常議員

富山スガキ株式会社

代表取締役社長 須垣 貴雄

社長就任時はどうでしたか？

富山スガキ株式会社は、医薬品パッケージを中心とする印刷・紙器メーカーです。1877（明治10）年に売薬へ和紙を卸す「スガキ紙店」として創業。1926（大正15）年に印刷業へ参入し、カタログやパンフレットなどの商業印刷で発展してきました。現在主力の医薬品包装では、医療現場の声に基づいた製品開発で実績を重ねています。富山市民の間でお馴染みの夏のラジオ体操カードは、1948（昭和23）年から毎年、市内の小・中学校、幼稚園などに贈り続けて今年78回目を数えます。須垣貴雄社長に地域に寄せる想いをお聞きしました。

「社長には2014年に就任しました。既に2年ほど代表取締役専務を務めていたため、対外的には大きな変化とは感じていませんでした。当時は医薬品市場の9割を占める医療用医薬品の包装を伸ばすため、販路開拓を進めていましたが、製薬大手からの受注獲得は容易ではありませんでした。そこで、医療現場の薬剤師からパッケージに対する要望を聞き取り、その声を基にした製品を提案しました。地道な取り組みですが、現場のニーズを分析したデータへの反響も大きく、受注だけで

なく大学や研究機関との共同研究にも発展し、幅広い人脈に繋がりました」

今後、富山のために何がしたいですか？

「県内の印刷業界は中小企業が多く、単独での情報収集や緊急時の対応が難しいのが現状です。業界団体の数の力を活用して、業界全体で持続可能性を高めることが重要だと考えています。理事長を務める県印刷工業組合では、BCP（事業継続計画）対策として、

万が一の事態に備えてデータを安全に管理する体制を強化し、県外の同業組合と非常時に連携するネットワークの構築を進めています。今年度は石川県の組合と協定を結ぶ予定です。サステナブルやスマートファクトリーへの対応などの課題や最新情報も、業界全体で共有を図り、レベルアップすることが、地域経済の発展にも繋がると考えています。加えて、医薬品包装に携わる企業として、富山の薬業発展にも一層貢献していきたいと考えています」

会員の方々へメッセージをお願いします。

「1社単独での情報収集や連携先の確保には限界があります。そんなときこそ、富山商工会議所のネットワークや支援を活用してみてください。セミナーへの参加や相談窓口の利用によって、解決の糸口やヒントが見つかり、新たなチャンスをつかむ可能性が高まります。事業をさらに成長させたい意

欲はあるけれど、具体的な進め方がわからないときにも、当所には蓄積された数多くの成功事例やモデルケースがあります。そこから学び、応用すること、実現の可能性が広がるのではないかと思います」

取材を終えて

須垣社長は、大学卒業後に入社した企業で希望部署に配属されるも、月350〜400時間という過酷な勤務を経験。そのなかで「仕事が重なり苦しい状況に陥ったときは一度立ち止まり、客観的に自分を見つめ直すことを意識するようになった」と語ります。

「一人ブレスト」の手法で、問題を書き出して整理していくと、次第に落ち着いて何を優先すべきかが明確になるそうです。当所においても、冷静な視点を持ちながら行動を導く存在として、今後ともご活躍を期待しています。



▲中学から大学までハンドボールを続け、その縁もあってアランマーレ富山を支援しています。スポンサー活動と事業を結び付けて、試合会場ではデジタルガチャやフォトフレームを展開し、観戦の楽しさを広げています。

医薬品パッケージの総合メーカー

富山スガキ株式会社

創業 1877（明治10）年
富山市塚原23番地1

